

特別支援学級(自立活動)指導案

えのき 2組(知的障害) 7名

ひまわり学級(肢体不自由) 1名

指導者 塩満伸一 河口麻希

協働してプレゼンテーションを作成することを通して、異年齢の相手に対して自分の考えを伝えたり、聞いたりする活動は、相手を意識し、言葉かけを工夫したり、相手を思いやったりしようとするところができるコミュニケーション能力を育成するための手立てとして有効であったか。

1 単元 「作り方を考えよう」

2 目標

自立活動の内容から (重点内容)

- | | |
|-------------|--|
| 3 人間関係の形成 | (1)他者とのかかわりの基礎に関すること
(2)他者の意図や感情の理解に関すること |
| 6 コミュニケーション | (1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること
(5)状況に応じたコミュニケーションに関すること |

- カレーライスを作ることに興味・関心をもち、進んで活動することができる。
- カレーライスの作り方を調べ、用具・材料・作り方をまとめることができる。(タブレット活用)
- カレーライス作りの活動を通して、食材を知ったり、道具を使う仕事にふれたりして、生活経験を豊かにする。
- 友達との関わりを通してコミュニケーション能力を身に付けることができる。

3 単元で育成する資質・能力 (評価規準)

知識及び技能 (身近な環境や自分についての気付き)	思考力・判断力・表現力等 (生活や体験についての思考・表現)	学びに向かう力・人間性等 (生活への関心・意欲・態度)
カレーライスを作ることに関心を持ち、作った経験のある児童に話をさせたり、作り方を家族から聞いて調べたりしようとしている。	カレーライスを作るために必要な用具・材料・作り方などを、友達と協力しながらプレゼンテーションに分かりやすく表現している。	カレーライスを作る活動を通して、相手に対して思いやりのある態度で接し、よりよい関係を築こうという意欲を高めようとしている。

4 指導計画 (全 13 時間)

進	主な学習活動	時間
つかむ・見導	① どんなカレーを作りたいかな。 ○カレーの本や動画を見て、自分の好きなカレーは何かを伝え合う。また、自分の家庭のカレーはどうやって作られているのか発表する。 ○カレーを作るためには、どのような材料や道具が必要か、調べる。 ○カレーを作るためにレシピが必要なことに気付き、レシピを作成する計画を立てる。	3
ふかめる	② どうやってカレーを作るのかな。 ○家庭科室などで用具や材料の写真を撮る。(2時間) ○カレー作りの手順をプレゼンテーションソフトで作成する。(2時間) ○前時で作成したプレゼンテーションを発表して、だれが見てもわかりやすいカレーのレシピになるためのポイントについて話し合う。 ○レシピ作りのためのポイントを確認し、作り直すために必要な素材を集める。 ○前時まで確認したポイントを基に、再度レシピを作りなおす。【本時】	7
まもる	③カレーパーティを開こう。 ○調べたレシピをもとにしてカレーライスを作る。(2時間) ○活動を振り返る。	3

5 本時 (10 / 13)

(1) 目標

誰が見てもわかりやすいカレーのレシピを作るために、友達と一緒に協力してプレゼンテーションを作成していく中で、コミュニケーション能力を高めることができる。

(2) 評価基準

- ・ カレー作りのレシピについて興味・関心をもちタブレットを活用して、友達と協力して作成することができる。
- ・ カレーのレシピを作るために必要なポイントが分かり、それを活かして作成することができる。
- ・ 友だちの発表を聞いて友だちの考えを知り、その良さに気付き、自分の考えを広げることができる。

(3) 指導に当たって

「つかむ・見通す」過程では、これまでの話し合い活動を基に作成のポイントを想起させ、本活動の学習課題と自分の経験・調べたことを照らし合わせることで、自分の課題を知ることができるようにする。「調べる」過程では、タブレットを活用して、レシピの再構築を行い、誰が見てもわかりやすいプレゼンテーションを作ることができるようにする。また、二人の教師が支援することで、子供同士の考えをつなげたり、個人の考えを全体に広げたり、新たな考えに気付くことができるようにする。「まとめる」過程では、互いの考えが違って仲よく話し合うことができた理由について考えることで、「仲よく話し合うための大切なこと」のよさについて理解することができるようにする。さらに、自己評価カードで振り返りをする際、第3次の「カレーパーティを開こう」のめあてにつながる課題や活動の意欲につなげていく。

(4) 実際

過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点と手立て
つかむ・見通す	<p>1 教師が作成したレシピを見る。</p> <p>2 プレゼンテーションの作成のポイントを全員で確認する。</p> <div data-bbox="209 853 836 1048" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・文字の量は多すぎない方がよかったね。 ・写真や動画があった方がわかりやすいね。 ・文字は大きい方が見やすいね。 </div> <div data-bbox="240 1077 815 1173" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>だれが見てもわかりやすいカレーのレシピに作り直そう。</p> </div>	8	<ul style="list-style-type: none"> ○ プレゼンテーションの作成のポイントを確認しやすくするために、教師が作成したプレゼンテーションをもとに振り返る。 ○ 活動の見通しがもてるように、作成のポイントが学習中に振り返られるように、児童の言葉とともに、写真と言葉を黒板に板書していく。 <p>【評】自分で目的意識をもって自分なりのめあてを立てることができる。(関心・意欲)</p>
調べる	<p>3 レシピの作り直す箇所を確認する。</p> <p>4 作成のポイントをもとに、レシピを作り直す。</p> <div data-bbox="209 1330 836 1592" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・文字が多すぎたから、このページは文字を減らそう。 ・この前、撮り直したこっちの写真を使うとよくわかるよ。 ・ここの字の大きさを変えるとわかりやすいよね。 </div>	17	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動の見通しをもたせるために、ペアで作成したプレゼンテーションのどこを作り直すのかグループ毎に確認する。 ○ 対話的な活動を活性化させるために、ポイントを取り入れて作成できているプレゼンテーションを取り上げて紹介し、比較させる。 <p>【評】ペアで意見を伝えたり、受け止めたりすることができる。(発言)</p>
まとめる・振り返る	<p>5 本時のまとめをする。</p> <p>(1) 新しく作ったレシピを発表する。</p> <div data-bbox="209 1727 836 1845" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>作成のポイントに気を付けると、わかりやすいレシピを作ることができる。</p> </div> <p>(2) 本時の感想を発表する。</p> <div data-bbox="209 1906 836 1980" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ポイントを考えて作り直したら、初めての人でもわかりやすいレシピになったよ。</p> </div> <div data-bbox="209 2002 836 2092" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>友達と協力しながら、仲良く話し合うと楽しく活動できたよ。</p> </div> <p>(3) 振り返りカードに記入する。</p>	20	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動を価値付けるために、前時と本時のプレゼンテーションを比較させ、変容を捉えさせる。 <p>【評】ポイントを基に、よりよいプレゼンテーションに作り直すことができる。(発言)</p> <p>【評】話し合いの様子について自己評価カードに記入させる。(自己評価カード)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今後の活動(カレー作り)に意欲をもたせる。

単元レベルでの問題解決・ICT活用と情報活用能力育成の位置付け

自立活動・カレー作りをしよう

児童のICT活用のポイント

情報活用能力

